

**【港南区】令和 5 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録**

開催日時	令和 5 年 9 月 5 日（火） 午後 3 時～午後 4 時 40 分
場 所	港南区役所 6 階 会議室
出席者	<p>【座長】 みわ智恵美議員</p> <p>【議員：4 名】 山田桂一郎議員、瀬之間康浩議員、安西英俊議員、 田野井一雄議員、</p> <p>【港南区：35 名】 栗原敏也区長、高橋功副区長、 小林仁担当理事（福祉保健センター長）、 遠藤寛子福祉保健センター担当部長、 松寄尚紀港南土木事務所長、櫻井清二港南消防署長、 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 4 年度個性ある区づくり推進費決算（中山総務課長説明）</p> <p>2 令和 5 年度個性ある区づくり推進費の執行状況（中山総務課長説明）</p> <p>3 令和 6 年度個性ある区づくり推進費予算編成にあたって （栗原区長説明）</p>
発言の 要 旨	<p>安西議員：「港南区総合庁舎前」バス停におけるバス乗り場の増設について、現在、仮囲いがされ工事が始まっているが、周辺の住民の方の理解と配慮が必要と思われる。そこで、事前に周辺住民にどのような説明を行ったのか。</p> <p>高橋副区長：8 月下旬の工事が始まる前、8 月 9 日から 10 日にかけて、工事の影響が及ぶ範囲にある住民及び地元の自治会に工事の内容やスケジュールなどについて、説明を行った。それとともに、自治会町内会長に近隣へのポスティングの範囲等の確認を行い、チラシを 80 部お渡ししており、回覧や掲示板での周知をお願いした。また、工事エリアに隣接するマンションについては、全戸に対し、チラシのポスティングを実施した。</p> <p>安西議員：今後も工事の進捗により、周辺の住民からは様々なご意見をいただくと思うが、ひとつひとつ丁寧に対応していただくよう、お願いしたい。また、前回の会議でも、新しいバス停を増設した後のバスを待つお客様の並び方が課題であると述べてきた。これに</p>

については事前に予測することは難しいと思うが、運用開始後に課題が生じた場合には、交通局と連携し速やかに対処していただくことを要望する。また、バス停の増設に合わせて、公会堂の広場にベンチを設置することになると思うが、夜間に通る歩行者や自転車がベンチに接触してしまわないよう、どのような対策を行うのか。

高橋副区長：夜間においては、危険な場面も想定されるため、公会堂前を通る歩行者や自転車に乗車している方がベンチを視認できるよう、肘掛け部分など、ベンチの側面に反射板を設置するなど、視認性を高めるような工夫をしていく。

安西議員：弱視の方からすると、景観上、茶色のものを設置しそこに赤い反射板をつけただけだと見づらいという意見もある。これから器具の選定をと思うが、夜間でも視認性が高いものを選定してほしい。また、視覚障害者の方は、白杖がベンチと接触してしまうようなことも考えられるため、ラバーポールなどをベンチの手前に置いて安全性を高めるなど柔軟な対応を行ってほしい。

続いて、「デジタル区役所」に関連して、がん検診の減免手続きについて伺いたい。がん検診を受ける際に、所得によって減免の手続きを受けることができるが、現在の手続き上は、区役所の窓口でしか手続きができないようになっている。来庁が難しい方が自宅から申請出来る仕組みの導入について、伺いたい。

佐藤福祉保健課長：現在、所管局である医療局において、がん検診の減免手続きの見直しについて検討していると聞いている。デジタル区役所のモデル区である港南区としても、オンライン等で手続きができることが望ましいと考えるため、今後の局の検討にも協力していくとともに、引き続き、利用者への丁寧な対応に心がけていきたい。

安西議員：続いて、「防災スピーカー」を設置している意義について、伺いたい。

中山課長：防災スピーカーは、国からの緊急情報であるJアラートや、横浜市からの緊急情報について、市民や街を訪れた方に迅速に伝達することを目的に、令和元年度から3か年で、横浜市内190か所に設置された。港南区では区役所や地域防災拠点を中心に、12か

所の防災スピーカーを設置しており、Jアラートのほか、台風等の接近により特別警報の発表が見込まれる場合の「事前周知」や、河川の増水や台風直撃による避難情報の発令など「緊急情報」発信の際に活用することを想定している。

安西議員：こうした緊急時の情報伝達ツールは、いざという時に使用できるよう定期的に試験し、区民の皆様にもその存在を知っていただくことが必要ではないかと思う。そこで、防災スピーカーの試験放送の実施について、伺いたい。

中山総務課長：国が毎年、年4回実施するJアラート全国一斉情報受伝達試験に合わせて、横浜市も試験放送を行っている。試験当日は、まずは国の試験放送が流れ、その後、横浜市総務局による試験放送が流れる。令和4年度は、5月、8月、11月、2月に実施し、今年度も6月、8月、11月、2月に予定していたが、北朝鮮の衛星打ち上げの予告により、6月は中止、8月は延期となり、次回は9月20日を予定している。

安西議員：昨年度も4回、試験放送があったとのことだが、私自身は、実際にスピーカーの音声を聞いたことがない。現在の状況では、区民の皆様に必要な緊急情報が伝わらないということが懸念される。そこで、防災スピーカー以外の伝達手段として、どのようなものがあるか。

中山総務課長：緊急事態が発生した際には、防災スピーカー以外にも、Twitter(現X)、港南区安全安心メール、緊急時情報受伝達システム、広報カー、ホームページなど複数の伝達手段を組み合わせている。また、警察や消防など関係団体とも十分連携しながら、区民の皆様迅速かつ確実に緊急情報があるということを認識していただき、ホームページ等から情報を収集していただけるよう、さらなる周知を図っていきたい。

安西議員：区民の皆様は、素早く正確に情報が伝わる、ということが重要なため、引き続き、災害情報を迅速・的確に伝達できるよう状況に応じたツールを活用し、防災・減災対策の充実に取り組んでほしい。

最後に、「歩行者サポート事業」について、実施箇所が昨年度の9か所から7か所に減っており、予算も昨年度より1,000千円

減額されているが、実態とニーズに合わせているのか。

坂口港南土木事務所副所長：「歩行者サポート事業」については、自治会町内会や関連団体等から出てきている要望は、過年度のものから順次実施している。また、手すりの新規設置の要望については、個人あるいは自治会町内会長、連合町内会長から相談を受け、現地調査をした上で順次行っている。引き続き適切な形で実施していくための予算は確保できていると認識している。

瀬之間議員：「地域文化推進事業」について、文化芸術に触れる機会を提供するために、ワークショップ形式のアートイベントを実施とあるが、具体的には何をやるのか。

松田地域振興課長：昨年度実施した区民意識調査では、文化活動に興味がない区民が約半数を占めていた。不特定多数の方が多く集まる「こうなん子どもゆめワールド」の開催日に、通りすがりの人でも参加できるようなイベントを開催したいと考えている。

瀬之間議員：「区民活動・生涯学習事業」のうち、今年度から新規で実施している「港南区まなび応援事業」について、施設から4事業の応募があり、ビブリオバトルなどの3事業を実施するとのことだが、具体的にどのような事業を実施する予定なのか。

松田地域振興課長：1つ目は、港南地区センター、港南台地区センター及び日限山コミュニティハウスの3つの施設が連携し、小学生を対象とした、「こうなん『こども図書室員』体験講座」を実施する。

2つ目は、日野南コミュニティハウス、野庭地区センター及び港南地区センターの3つの施設が連携し、推しの本を語る「ビブリオバトル」、3つ目は、日野中央公園、桜道コミュニティハウス、港南公会堂及び芹が谷地域ケアプラザが連携し、「自慢のペット写真展」と併せて「家族で学ぶ防災展」を実施する予定であり、いずれの事業も指定管理者の枠を超えて、異なる施設がそれぞれの特徴を生かすことで新たな事業を創出できると考えている。

瀬之間議員：異なる施設が連携することによって、これまでにない新たな事業が創出できることを理解した。施設間の連携を促進することは重要であると考えているが、今後「港南区まなび応援事業」をどのように展開していくのか。

松田地域振興課長：来年度も同様のスキームで事業を実施したいと考えているが、今年度事業を実施した施設の意見を参考にしながら、施設にとってよりメリットがある方法で実施していきたい。また、施設同士が連携できる土壌を作ることにより、将来的には施設同士が自発的に連携するようになってほしい。

瀬之間議員：施設としっかりコミュニケーションをとりながら、最善の方法で事業検討をしていただきたい。また、多くの区民の方の関心がある事業だと思うので、より多くの方に楽しんでいただける事業が実施されるよう、引き続き区役所のフォローをお願いしたい。

山田議員：上大岡駅第8駐輪場、港南中央ヨークフーズ前及び港南台駅にある駐輪場について、各駐輪場の設置状況や使用状況について伺いたい。

松田地域振興課長：上大岡駅については、自転車・バイクを合わせ7か所設置しており合計3,235台の収容台数であり、上大岡駅第8については、1,065台の収容台数となっている。港南中央駅については1か所設置しており、269台、港南台駅についても、1か所設置しており、2,921台の収容台数となっている。

山田議員：駐輪場に関する「区民アンケート」を行ったり、要望を受けたりしているのか。

松田地域振興課長：特に区民アンケートは実施しておらず、要望も受けていないが、区としては、現在道路局の予算を使用し、放置自転車等監視員を月に1回、多い場所では月に5回ほど自転車等放置禁止区域に配置し、放置防止の呼びかけ及び注意札の貼付業務を進めている。

山田議員：駐輪場が不足しているといった地域の声を聴くが、改善に向けた今後の対応を伺いたい。

松田地域振興課長：収容台数の変更や自転車駐車場の増設については、道路局交通安全・自転車政策課に地域の声を伝えていく。なお、港南台駅前については、令和5年9月1日現在、500台ほどの空きがあるため、放置自転車等監視員からの呼びかけを粘り強く続けていく。

山田議員：新型コロナウイルス感染症の影響で飲食店が営業を自粛した影

響で、市内の飲食店でネズミが大量発生していると聞いたが、港南区のネズミの発生状況はどうか。

荒木生活衛生課長：飲食店でのネズミの発生については統計等の資料がなく、生活衛生課への相談が特に増えたということもない状況である。一方で、区民からの一般家庭におけるネズミに関する相談件数は年々増加している。令和元年度は年間 55 件であった相談件数は、昨年度は 238 件であった。生息調査をしていないため生息数については不明だが、相談が増えた理由としては毎年広報よこはまで、ネズミに関する情報提供を行っていることや窓口として生活衛生課が認知されてきたこと、最近の方はご自身でネズミの駆除を行った経験がない方が多いため、相談が増えているという可能性が考えられる。

山田議員：飲食店のネズミ対策についてどのような対応を行っているか。

荒木生活衛生課長：飲食店については、食品衛生法施行規則の中で業者が順守すべき基準として、ネズミの対策について定められている。具体的には、施設はネズミの侵入を防止できる構造であること、定期的に生息調査又は駆除を実施し、その記録を 1 年間保管することなどである。生活衛生課では調査や監視で立ち入りを行った際に、これらの記録を確認し、必要な指導や助言を行っている。また、屋内へのネズミの侵入や生息についての相談を受けた際には、ネズミが侵入しづらい環境の整備方法や生息調査・駆除の方法、ネズミ捕獲用のカゴの貸し出しなど具体的な助言・指導を行っている。

山田議員：最後に「交通安全等補修事業」について伺いたい。車椅子を利用している方から道路の傾斜や凸凹が気になり、歩道が歩きにくいと感じているという意見がある。車椅子利用者のために歩道を改善してもらいたい。

坂口港南土木事務所副所長：既存の歩道の多くは、住宅等に隣接しており、住宅等の駐車場への出入りを確保するため、歩道に傾斜がつけられている。土木事務所としては、歩道を切り下げる必要がある場合、自費工事申請をしていただき、基準に合致していれば、それを認めている。このような歩道の傾斜の解消には、沿道敷地との擦り付けが困難など、対応が難しい場合が多いのが実情である。

なお、道路局からは、新たな道路を整備する場合には、乗り入れ部の切り下げが不要となる構造形式を基本とするなど、道路のバリアフリー化に取り組んでいると、聞いている。ご質問の点については、道路局とも共有していきたい。

みわ議員：「健康アクションこうなん5推進事業」の働き・子育て世代の健康づくりについて、検診に行くことが難しい若者世代や子育て世代の健康づくりに取り組みを広げていただき、感謝している。乳幼児健診やイベントの際に保護者の健康チェックを実施していくとあるが、こういう機会を捉えて実施することはいいと思う。ただ、昨年度の決算をみると執行率が66%となっているのはなぜか。また、新規の取組をしていく中で、昨年度より予算が引き下げられているのはなぜか。

佐藤福祉保健課長：昨年度の執行率については、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等が中止となり、使用する啓発物品等の数も減り、在庫活用ができたり、新たな発注を見合わせたりしたことが理由になっている。また、今年度の予算を減額した理由としては、骨密度計や各種の測定機器について、新規のリース契約ではなく、再リースにより割の良い契約が可能となることが主な理由となっている。

みわ議員：今後も様々な機会をとらえて働いている方等が健康診断を受けやすいようにする取り組みを広げてほしい。「災害時も地域で見守り推進事業」について、昨年度の福祉避難所における開設訓練及び地域防災拠点における要援護者の訓練参加の実績と予定を伺いたい。

松月高齢・障害支援課長：昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で福祉避難所の開設訓練は見送った。今年度は、6月27日に福祉避難所連絡会を開催し、避難所の開設につながるHUG訓練を実施した。今後は各施設でもHUG訓練を実施できるようサポートしていきたい。また、地域防災拠点での要援護者参加の訓練については、昨年度は、上永谷中学校と日下小学校で実施した。また、日下小学校では、日下地域ケアプラザと連携し、要援護者を移送する訓練を行った。今年度は、日下小学校での訓練時に日下地域ケアプラザと区役所も加わり、3拠点で訓練を実施する予定であ

る。

みわ議員：全地域で要援護者への対応を進めていくために、区役所が今後どのようなことを考えているかについて改めて伺いたい。

松月高齢・障害支援課長：年に2回開催されている地域防災拠点運営委員会連絡協議会の中で、引き続き、障害者の受入れを促していくとともに、今後は他の施設での訓練参加を促進するため、福祉避難所連絡会等を通じてより多くの人にも参加してもらえるよう働きかけていきたい。

みわ議員：災害はいつ来るかもわからないので、区役所が全地域でできるような取り組みに力を出してほしい。続いて、「港南区総合庁舎前」バス停におけるバス乗り場の増設に関する報告があったが、新たに設置されるベンチについて伺いたい。目が不自由な方や高齢の方にとって、屋根があるとベンチを認識しやすい。新たに設置されるベンチの上に屋根はつけられないのか。

高橋副区长：ベンチを設置するにあたり、当然、雨ざらしにならないよう屋根を設置することも検討していたが、道路占用の基準上の問題で、今後設置する予定の上屋の屋根をベンチまで伸ばすことができなかった。設置するには単独で屋根をつけることになるが、工事の積算などを最初からやり直す必要があるため、結果として屋根を設置することを断念せざるを得なかった。

みわ議員：歩道ベンチに屋根がつけば安全対策にもなるので、ベンチに屋根をつける検討をしてほしい。「デジタル区役所モデル区としての取り組み」について、伺いたい。デジタル化は、利便性向上を目的とする1つの手段としてあると思うが、報告資料の説明を聞くと、使えないことが問題になっているようにも感じる。デジタル化の恩恵を受けられない方も困らないようにしてほしい。デジタル区役所モデル区を進めていく中での考え方を明らかにしてほしい。

栗原区長：区の運営方針を地域で説明していく中で、デジタル化を進めることに対して、冷たい印象を持ってしまうという声をいただいた。港南区としては、運営方針に掲げている「あったかデジタル港南」を目指し、対面で行う手続きの前と後ろの部分のデジタル化を進めている。例えば、LINEを利用し、会議の開催を知ら

せ、会議は実際対面で行い、会議後にはLINEで議事録を共有するなど、目的ではなく手段としてのデジタルの活用を考えている。デジタル化に対して、苦手意識や不安がある方には今後も引き続き、寄り添って進めていきたい。

田野井議員：今日も地震があったが、災害は時間を選ばず、突然やってくる。そういった災害に対策できるようHUG訓練のような机上作戦は必要になる。HUG訓練はどれくらい実施しているか実績を教えてほしい。

中山課長：昨年度については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり2拠点のみで実施した。今年度以降は、積極的なHUG訓練の実施を呼びかけていきたい。

田野井議員：日限山公園の施設改良については長年の懸案事項であった。災害に強いまちづくりを実施していくためにも良い試みだと思う。このような決断に至った経緯を教えてほしい。

松寄港南土木事務所長：日限山公園のトイレの設置については、約30年にわたる地域の重要な課題であった。課題解決のため、地域住民や議員の皆さまに尽力していただいた。これまで横浜市は地域の合意を求めるスタンスでいたが、これ以上合意を求める事は、地域の不和・分断を生じさせる可能性があった。そのため、土木事務所が決断したいという考えを参加者に説明し多くの賛同を頂いた後、今回の決断を説明させて頂いた。

田野井議員：今後、いろいろな意見が出てくると思うが、ワンチームで進めてほしい。

上大岡のC地区の再開発について、進捗がないように思えるが、地域の意見は何か聞いているのか。

高橋副区長：地域の皆さまがこの問題を重要なものとして捉えていることを区役所としても認識している。一方で、本再開発事業は準備組合が主体的に検討を進めていくべきという側面もある。今後、区として何ができるか、どのような行動を起こしていくべきかなどについて、地域や議員の皆さまにもご意見を伺いながら進めていきたい。

田野井議員：次世代にどういうものを残すか、また、若者をどのように取り込んでいくか、という視点を持った街づくりを今後も目指して

	ほしい。
備 考	